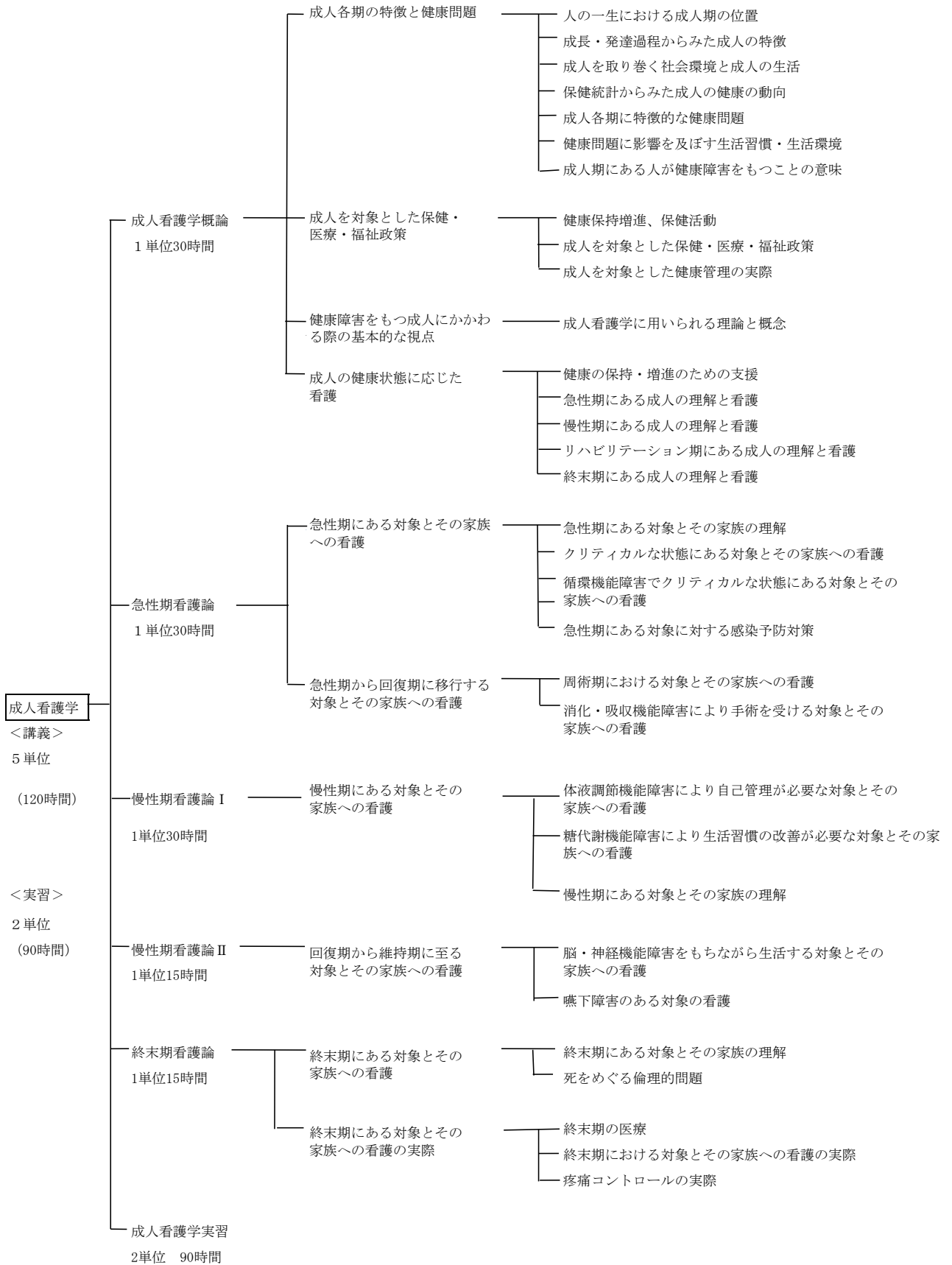


## 成人看護学

目的 成人期の特性を理解し、成人期にある人の健康状態に応じ、生活支援に向けた個別性のある看護を実践できる基礎的能力を養う。

- 目標
- 1 成人期にある対象を生活者として統合的に理解する。
  - 2 成人期にある人の健康に影響を及ぼす因子を理解し、健康を保持増進するための看護の役割について理解する。
  - 3 成人期にある人の健康上の課題を解決するために、科学的根拠に基づいた看護を実践できる能力を身につける。
  - 4 対象の QOL について考え、個人を尊重した看護を理解する。
  - 5 成人期にある人に倫理に基づいた看護が実践できる基礎的能力を身につける。
  - 6 保健・医療・福祉における協働の必要性を理解し、成人期にある人への看護の役割を理解する。

成人看護学構成図



授業科目	成人看護学概論	担当教員 専任教員☆ ① 非常勤講師☆ ②堀部 雅子 ③松久 千花 ④医療機関看護師	単位数	1	時期	1年次 4月～7月
			時間数	30		
目的と目標	<p>ライフサイクルにおける成人期の位置づけと成人期にある人の健康問題を理解し、成人期にある人の健康を支援するための基本的な考え方について学ぶ。</p> <p>1 成人期にある人のライフサイクルから見た特徴について理解する。  2 成人各期における健康問題の特徴を理解する。  3 成人期にある人の人口統計の動向と、健康保持増進、疾病予防のための保健活動を理解する。  4 保健医療福祉チームにおける看護の役割がわかる。  5 健康障害をもつ成人を支援するための基本的な考え方がわかる。</p>					
回数	学習課題	内 容	方 法	担 当 教 員		
1 2 3 4 5	成人各期の特徴と健康問題	(1) 人の一生における成人期の位置 (2) 成長・発達過程から見た成人の特徴 ① 青年期 ② 壮年期 ③ 向老期 (3) 成人を取り巻く社会環境と成人の生活 ①働くことと生活 ②家族との関係 (4) 保健統計から見た成人の健康の動向 ① わが国における人口構造の概要 ② 成人保健に関係する人口構成 ③ 死亡・死因の状況 ④ 受療状況 (5) 成人各期に特徴的な健康問題 ① 青年期の健康問題 ② 壮年期の健康問題 ③ 向老期の健康問題 (6) 健康問題に影響を及ぼす生活習慣・生活環境 ① 飲酒 ② 喫煙 ③ 食生活の乱れ ④ 運動不足 ⑤ ストレス ⑥ 睡眠時間・労働時間 (7) 成人期にある人が健康障害をもつことの意味	講義 グループ ワーク	専任教員 ( )		
6 7	成人を対象とした保健・医療・福祉政策	(1) 健康保持増進、保健活動 (2) 成人を対象とした保健・医療・福祉政策 ①健康づくり対策 ②生活習慣病対策 ③疾患対策 ④労働者の健康対策 ⑤自殺対策 ⑥障害者を支える制度・対策	講義	専任教員 非常勤講師 (堀部雅子)		
8		(3) 成人を対象とした健康管理の実際	講義	非常勤講師 (松久千花)		
9		② 看護師の健康問題と健康管理の実際	講義	非常勤講師 ( )		

回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員
10 11 12 13	健康障害をもつ成人にかかわる際の基本的な視点	(1) 成人看護学に用いられる理論と概念 ①患者の権利と権利擁護 ②セルフエフィカシー ③アンドラゴジー ④エンパワーメント ⑤多理論統合モデル ⑥家族システム理論	講義 グループ ワーク	専任教員 ( )
14 15	成人の健康状態に応じた看護 (3時間)  試験(1時間)	(1) 健康の保持・増進のための支援 (2) 急性期にある成人の理解と看護 (3) 慢性期にある成人の理解と看護 (4) リハビリテーション期にある成人の理解と看護 (5) 終末期にある成人の理解と看護	講義	専任教員 ( )
評価方法	筆記試験			
教科書 参考文献	新体系 成人看護学概論 成人保健 (メヂカルフレンド社)			
事前準備や 受講要件等	講義の前には事前課題の提示。 教科書を読んで講義に臨むこと。 指定した期日までに提出すること。			
☆担当教員 の実務経験	①④看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②保健師・助産師として行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ② 産業保健師としての経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	急性期看護論	担当教員	専任教員☆ ① 非常勤講師☆ ②医療機関看護師 ③麻酔科医師	単位数	1	時期	1年次 7月～11月
				時間数	30		
目的と目標	<p>急性期および急性期から回復期に移行する成人の心身の変化に応じた看護が理解できる。</p> <p>1 クリティカルな状態にある対象の特徴と看護の役割が理解できる。</p> <p>2 クリティカルな状態にある対象の生命維持、苦痛緩和への援助方法が理解できる。</p> <p>3 急性期にある対象に対する感染予防対策について理解できる。</p> <p>4 周術期にある対象の特徴と看護が理解できる。</p> <p>5 周術期にある対象の回復を促進するための援助方法が理解できる。</p>						
回数	学習課題	内 容		方 法	担 当 教 員		
1	急性期にある対象とその家族への看護	(1) 急性期にある対象とその家族の理解 ①急性期にある対象とその家族の特徴 ②急性期の治療の特徴 ③急性期症状と看護		講義	専任教員 ( )		
2		(2) クリティカルな状態にある対象とその家族への看護 ①クリティカルな状態にある対象とその家族の特徴 ②クリティカルケア看護師に必要な能力 ③クリティカルケア看護の役割		講義			
3							
4							
5		(3) 循環機能障害でクリティカルな状態にある対象とその家族への看護 ①心筋梗塞の病態理解 ②心筋梗塞でクリティカルな状態にある対象とその家族への看護 ③クリティカルケアにおける看護技術 (心電図・中心静脈圧測定)		講義 演習			
6		(4) 急性期にある対象に対する感染予防対策 ①侵襲的処置による感染の可能性 ②感染予防対策の実際 ア 病棟管理 (管理、消毒、汚物処理など) イ 患者・家族への指導と精神的援助		講義	非常勤講師 ( )		
7	急性期から回復期に移行する対象とその家族への看護 (17時間)  (技術演習3時間)  試験(1時間)	(1) 周術期における対象とその家族への看護 ①周術期(術前・術中・術後)の対象とその家族の特徴 ②周術期(術前・術中・術後)の対象とその家族への看護 ③麻酔法		講義	専任教員 ( )		
8		(2) 消化・吸収機能障害により手術を受ける対象とその家族への看護 ①胃癌の基礎知識 ②胃切除術前・後の看護 ③周術期の看護技術(手術後の離床)		講義	非常勤講師 ( ) 専任教員 ( )		
9							
10							
11				演習			
12							
13							
14							
15							

評価方法	筆記試験
教科書 参考文献	新体系 看護学全書 経過別成人看護学①急性期看護：クリティカルケア（メヂカルフレンド社） 系看護専門Ⅱ 成人看護学③循環器、⑤消化器、⑩アレルギー 膠原病 感染症（医学書院） 系看護別巻 臨床外科看護総論（医学書院）、系看護別巻 臨床外科看護各論（医学書院） ビジュアル臨床看護技術ガイド（照林社）、疾患別看護過程の展開（学研） 看護過程に沿った対症看護（学研）、治療薬マニュアル（医学書院）、看護に役立つ検査辞典（照林社）
事前準備や 受講要件等	成人期の特徴、急性期の対象の理解と看護、感染の成立・感染防止に関する基本および解剖生理学・疾病治療学の復習をして講義に参加すること（循環器系、消化器系）。教科書を読んで授業に臨むこと。
☆担当教員 の専修経験	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ② 医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。



授業科目	慢性期看護論Ⅱ	担当教員	専任教員☆ ① 非常勤講師☆ ② 医療機関看護師	単位数	1	時期	2年次 4月～6月						
				時間数	15								
目的と目標	回復期から維持期に至る成人の健康レベルの変化に応じた看護が理解できる。 1 障害をもちながら生活する対象とその家族の特徴を理解する。 2 運動障害のある対象の日常生活活動の援助方法を理解する。												
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員							
1 2 3	回復期から維持期に至る対象とその家族への看護  (技術演習含む3時間)	(1) 脳・神経機能障害をもちながら生活する対象とその家族への看護 ①脳梗塞の基礎知識 ②日常生活活動の再獲得への看護 ③地域・多職種連携による社会生活支援と看護の役割 ④麻痺のある対象の日常生活援助の実際(麻痺のある対象の移動)			講義	専任教員 ( )							
4 5													
6 7								(2) 嚥下障害のある対象の看護			講義 演習	非常勤講師 ( )	
8								試験(1時間)					
評価方法								筆記試験					
教科書参考文献	新体系 看護学全書 別巻 リハビリテーション看護 (メヂカルフレンド社) 新体系 看護学全書 経過別成人看護学③慢性期看護 (メヂカルフレンド社) 系看 専門Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経 (医学書院)、看護過程に沿った対症看護 (学研) 疾患別看護過程の展開 (学研)、ビジュアル臨床看護技術ガイド (照林社) 看護に役立つ検査辞典 (照林社)、治療薬マニュアル (医学書院)												
事前準備や受講要件等	成人期の特徴、慢性期・回復期の対象の理解と看護および解剖生理学・疾病治療学の復習をして講義に参加すること(脳・神経)。 教科書を読んで授業に臨むこと。												
☆担当教員の専任経験	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。												

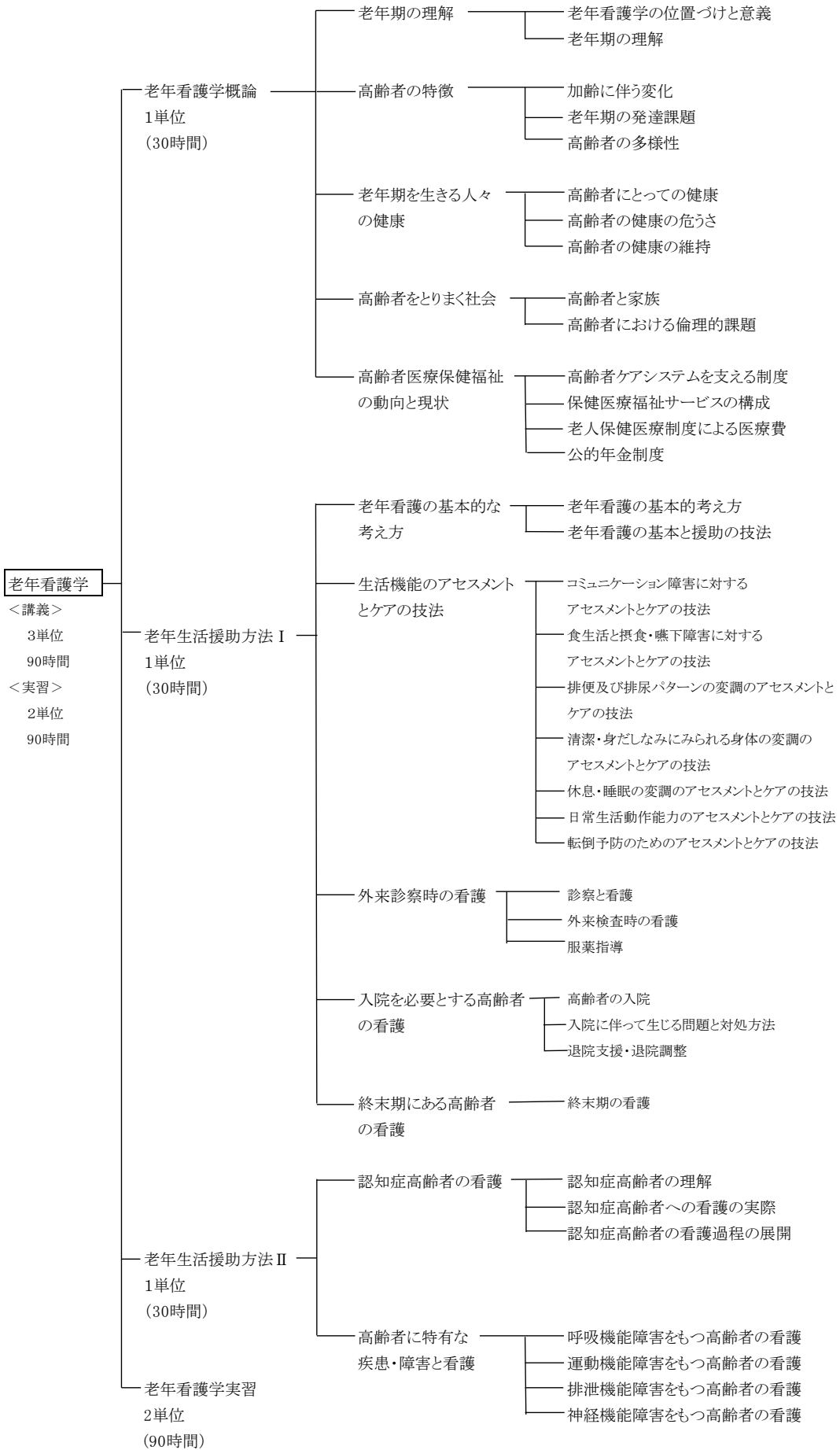
授業科目	終末期看護論	担当教員	専任教員☆ ① 非常勤講師☆ ②西村 幸祐 ③住田 俊彦 ④医療機関看護師	単位数	1	時期	2年次 4月～5月
			時間数	15			
目的と目標	終末期にある対象の看護が理解できる。 1 終末期にある対象の心理過程が理解できる。 2 終末期にある対象の全人的苦痛を理解し、心身の安楽への援助方法がわかる。 3 終末期にある対象の家族の特徴を理解し、援助の必要性がわかる。 4 終末期にある対象のQOLについて考えることができる。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	終末期にある対象とその家族への看護	(1) 終末期にある対象とその家族の理解 ①終末期にある対象とその家族の特徴 ②終末期にある人の心理過程 (2) 死をめぐる倫理的問題			講義	専任教員 ( )	
2							
3	終末期にある対象とその家族への看護の実際	(1) 終末期の医療 ①終末期の医療・チーム医療の実際 ②終末期にある人の全人的苦痛			講義	非常勤講師 (西村幸祐)	
4							
5		(2) 終末期における対象とその家族への看護の実際 ①生活の援助 ②家族のケア			講義	非常勤講師 (住田俊彦)	
6							
7	試験 (1時間)	(3) 疼痛コントロールの実際			講義	非常勤講師 ( )	
8							
評価方法	筆記試験 配点：100点（専任教員40点＋非常勤講師3～4回20点、5～6回20点、7回20点）						
教科書 参考文献	新体系 看護学全書 経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア (メヂカルフレンド社)						
事前準備や 受講要件等	成人期の特徴および終末期の対象の理解の復習をして講義に参加すること。 教科書を読んで授業に臨むこと。						
☆担当教員 の実務経験	①③④看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②医師として医療機関で緩和医療認定医として勤務した経験を活かした授業展開をする。						

## 老年看護学

目 的 老年期にある対象と家族および支える人々を理解し、加齢と健康障害の程度に応じた看護を実践できる能力を養う。

- 目 標
- 1 ライフサイクルのなかの老年期の特徴を捉え、老年看護の対象が理解できる。
  - 2 高齢者の健康と生活の多様性が理解できる。
  - 3 高齢社会の医療・保健・福祉対策の動向と現状が理解できる。
  - 4 高齢者に起こりやすい日常生活上の障害が理解できる。
  - 5 高齢者の健康障害の特徴と高齢者の健康を支える看護が理解できる。
  - 6 ライフサイクルの最終段階にある高齢者の生命と人格を尊重する態度を養う。

# 老年看護学構成図



授業科目	老年看護学概論	担当教員	専任教員☆ ①	単位数	1	時期	1年次 5月～7月
			非常勤講師☆ ②安達 智紀	時間数	30		
目的と目標	<p>高齢者を身体的老化のみならず、その人の人生や影響を受けた社会変動、環境などの多様性と高齢社会の動向を知り、高齢者の健康と生活を支える基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>1 老年看護学の必要性と意義が理解できる。  2 ライフサイクルのなかの老年期の身体的・精神的・社会的特徴を捉え、老年看護の対象が理解できる。  3 加齢変化に伴う高齢者の健康状態の理解を深め、健康維持の必要性が理解できる。  4 高齢社会の現状と老年看護における倫理的課題が理解できる。  5 社会構造の変化、高齢化にともなう老年医療・保健・福祉対策の動向と現状が理解できる。</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	老年期の理解	(1) 老年看護学の位置づけと意義 ①老年看護学のなりたち ②老年看護学の目的・目標 (2) 老年期の理解 ①ライフサイクルとしての老年期 ②人口学的指標からの老年期理解			講義	専任教員 ( )	
2	老年期にある対象の特徴 (15時間)	(1) 加齢に伴う変化			講義 GW		
3		①身体的機能の変化					
4		ア 老化の要因・原因					
5		イ 身体的特徴					
		②精神的機能の変化					
		ア 知的側面					
		イ 情緒的側面					
		ウ 人格の変化					
		③社会的機能の変化					
		ア 社会的役割					
	イ 家族内役割						
	ウ 経済力(就労と雇用の実態を含む)						
6		④身体・精神・社会的機能の相互関係			体験演習		
		ア 高齢者疑似体験					
7		(2) 老年期の発達課題					
8		(3) 高齢者の多様性			講義 GW		
		①生活習慣・生活様式の多様性					
		②価値観の多様性					
		ア 祖父母のライフヒストリー					
9		③高齢者の性					
		ア 性への社会的偏見					
		イ 性機能の生理的变化					
10	老年期を生きる人々の健康	(1) 高齢者にとっての健康			講義		
		(2) 高齢者の健康の危うさ					
		①高齢者に多い疾患					
		ア 健康指標に見る高齢者の特徴					
		イ 疾患から見た高齢者の実態					
		②疾患をめぐる特徴					
11		(3) 高齢者の健康の維持			講義		
12		①生活習慣と健康			GW		
		②健康を意識した日常生活					

回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員
13	高齢者をとりまく社会	(1) 高齢者と家族 ①高齢者と家族のライフサイクルの変化 ②家族形態の変化 ③高齢者と家族の関係 (2) 高齢者における倫理的課題 ①権利擁護と成年後見制度 ②高齢者虐待 ③身体拘束・身体抑制	講義	専任教員 ( )
14 15	高齢者医療保健福祉の動向 と現状  試験 (1時間)	(1) 高齢者ケアシステムを支える制度 ①介護保険制度 ②老人福祉法 ③日常生活支援事業 (2) 保健医療福祉サービスの構成 (3) 老人保健医療制度による医療費 ①後期高齢者医療制度 (4) 公的年金制度	講義	非常勤講師 (安達智紀)
評価方法	筆記試験 100点 (専任教員 80点 + 非常勤講師 20点)			
教科書 参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) *その他、提示する資料			
準備や 受講条件等	教科書を読んで講義に臨むこと。 指定した期日までに提出すること。			
☆担当教員 の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ② 社会福祉士として施設に勤務した経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	老年生活援助方法 I	担当教員	専任教員☆ ①	単位数	1	時期	1年次 7月～11月
			非常勤講師☆ ②酒井 恭子	時間数	30		
目的と目標	加齢変化や老年期特有の健康障害に対して、解決もしくは生活への影響を最小にするための基礎的な知識と看護方法を学ぶ。 1 老年看護学の基盤となる考え方が理解できる。 2 高齢者の健康・自立を支えるための基本的援助が理解できる。 3 高齢者の受診時における特徴と支援方法が理解できる。 4 入院による生活環境の変化と高齢者の心理的反応、社会的影響について理解できる。 5 終末期にある高齢者に対する看護の方法が理解できる。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担 教 員	
1	老年看護の基本的な考え方	(1) 老年看護の基本的考え方 (2) 老年看護の基本と援助の技法 ①老年看護の原理 ②老年看護の展開			講義	専任教員 ( )	
2	生活機能のアセスメントとケアの技法	(1) コミュニケーション障害に対するアセスメントとケアの技法 ①高齢者のコミュニケーション障害 ②コミュニケーション促進のための援助 ③感覚機能障害をもつ高齢者のコミュニケーション ④言語障害をもつ高齢者のコミュニケーション			講義 GW		
3 4		(2) 食生活と摂食・嚥下障害に対するアセスメントとケアの技法 ①加齢による摂食・嚥下機能の変化 ア 食生活のアセスメント イ 咀嚼・嚥下障害のリハビリテーション ②脱水予防 ア 脱水になりやすい要因・背景 イ 高齢者の脱水症状の特徴 ウ 脱水の予防と看護 ③食生活を豊かにするための援助			講義 GW		
5 6	(3時間)	(3) 排便及び排尿パターンの変調のアセスメントとケアの技法 ①排尿コントロール ア 尿失禁の分類と要因 イ 失禁が生活に及ぼす影響 ウ 尿失禁のアセスメント エ 排尿障害に対する援助 オ 尿失禁に対する用具の選択 ②排便コントロール ア 便秘の原因と症状 イ 便秘と便失禁 ウ 下痢 エ 排便障害に対する援助 オ 摘便 *			講義 GW		
7					演習 *オムツ 交換演習 時に行う		

回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員
8		(4) 清潔・身だしなみにみられる身体の変調のアセスメントとケアの技法 ①高齢者の皮膚の特徴と援助時の注意 ②皮膚疾患 ③口腔の清潔 ア 口腔内の変化と特徴 イ 口腔ケアに対する援助	講義	専任教員 ( )
9		(5) 休息・睡眠の変調のアセスメントとケアの技法 ①高齢者の睡眠パターン ②不眠の原因とアセスメント ③安眠への援助	講義	
10		(6) 日常生活動作能力のアセスメントとケアの技法 ①ADL 障害の発生要因・背景 ②ADL 障害のもたらす影響 ③ADL 障害のアセスメント ④生活リハビリテーション ⑤ADL を高めるためのケア アクティビティケア	講義	
11		(7) 転倒予防のためのアセスメントとケアの技法 ①転倒しやすい要因・背景 ②高齢者の転倒の特徴 ③転倒・転落予防のアセスメント ④転倒が発生した時の看護 行動の制限の考え方	講義	非常勤講師 (酒井恭子)
12		(1) 診察と看護 (2) 外来検査時の援助 (3) 服薬指導	講義 GW	専任教員 ( )
13	外来診察時の看護 (1時間)	(1) 高齢者の入院 (2) 入院に伴って生じる問題と対処方法 (3) 退院支援・退院調整	講義	
14	入院を必要とする高齢者の	(1) 終末期の看護 ①高齢者の終末期ケアの特徴 ②看取りへの看護	講義	
15	看護 (3時間)		GW	
16	終末期にある高齢者の看護  試験 (1時間)			
評価方法	筆記試験			
教科書 参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 生活機能からみた老年看護過程 (医学書院) 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア (メヂカルフレンド社) ＊その他、提示する資料			
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。 指定した期日までに提出すること。			
☆担当教員 の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ② 介護支援専門員として施設で勤務した経験を活かした授業展開をする。			

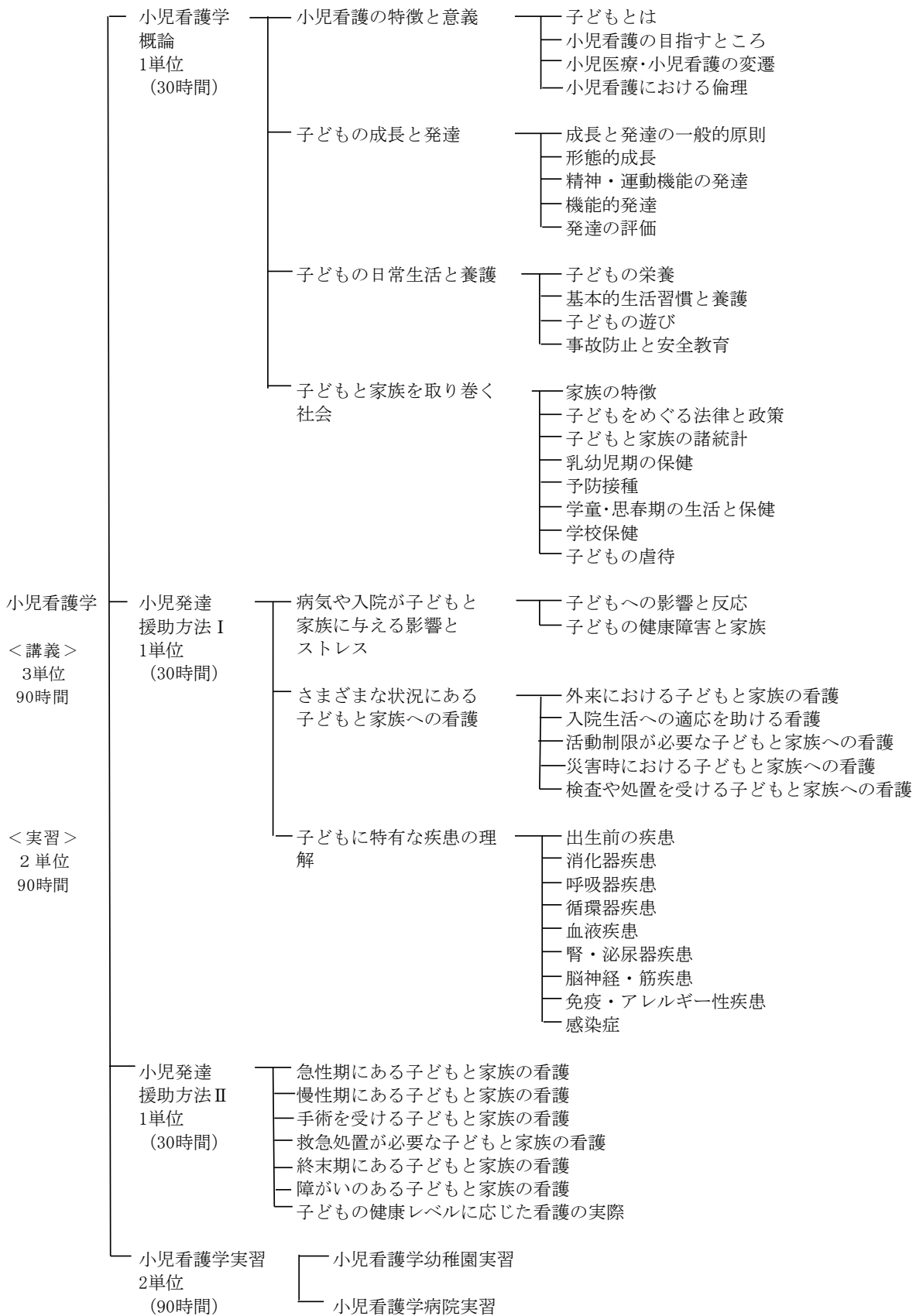
授業科目	老年生活援助方法Ⅱ	担当教員	専任教員☆ ① 非常勤講師☆ ②藤原 富子	単位数	1	時期	1年次 11月～2月
				時間数	30		
目的と目標	高齢者の特徴を踏まえ、生活機能の観点から看護過程の展開方法を学ぶ。 1 高齢者の健康障害と看護が理解できる。 2 対象理解の方法が理解できる。 3 生活機能の視点でのアセスメントが理解できる。 4 看護の焦点を明確にする方法が理解できる。 5 高齢者の特徴を踏まえた看護計画立案のための方法が理解できる。						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	認知症高齢者の看護	(1) 認知症患者の理解 ①認知症とは ②認知症の成り立ち ③認知症の評価 ④生活行動の障害 ⑤認知症の治療 (2) 認知症高齢者への看護の実際 ①対応の基本 ②困難な症状に対する コミュニケーション方法 ③環境に注目したケア		講義	専任教員 ( )		
2 3				講義	非常勤講師 (藤原富子)		
4 5 6 7 8 9 10 11	(15時間)	(3) 認知症高齢者の看護過程の展開 ①対象の理解 ②生活機能のアセスメント ③看護の焦点・看護問題の明確化 ④計画立案		講義 GW 個人ワーク	専任教員 ( )		
12 13 14 15	高齢者に特有な疾患・障害と看護  試験 (1時間)	(1) 呼吸機能障害をもつ高齢者の看護 (2) 運動機能障害をもつ高齢者の看護 (3) 排泄機能障害をもつ高齢者の看護 (4) 神経機能障害をもつ高齢者の看護		講義	専任教員 ( )		
評価方法	筆記試験 配点 100 点 (専任教員 80 点 + 非常勤講師 20 点)						
教書参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 生活機能からみた老年看護過程 (医学書院) *その他、提示する資料						
事前準備や受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。 指定した期日までに提出すること。						
☆担当教員の職務	① ②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

## 小児看護学

目 的 子どもの権利や小児看護倫理に基づき、健康状態に応じた子どもと家族への看護を実践できる基礎的能力を養う。

- 目 標
- 1 子どもと小児看護についての基本的な考え方が理解できる。
  - 2 子どもを取り巻く社会環境と健康問題が理解できる。
  - 3 子どもを取り巻く諸制度とその活用について理解できる。
  - 4 子どもに起こりやすい疾病や症状、健康状態に応じた看護が理解できる。
  - 5 子どもの成長と発達、健康な日常生活を送るための養護について理解できる。
  - 6 小児看護における家族を含めた看護の支援について理解できる。

# 小児看護学構成図



授業科目	小児看護学概論	担当教員	専任教員☆ ① 非常勤講師☆ ② 医療機関看護師 ③ 入野 奈穂 ④ 安藤 宜幸	単位数	1	時期	1年次 5月～7月
			時間数	30			
目的と目標	<p>ライフサイクルにおける小児期の特徴を理解し、子どもの成長・発達への援助と健康生活の保持・増進に関わる環境について理解できる。</p> <p>1 小児看護の特徴と意義が理解できる。 2 子どもの成長・発達とその特徴について理解できる。 3 子どもの健康な日常生活を理解し、それに応じた援助が理解できる。 4 子どもの健康な生活の保持・増進のための家庭の意義と社会のかかわりを理解し、看護の役割が考えられる。</p>						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	小児看護の特徴と意義	(1) 子どもとは (2) 小児看護の目指すところ ① 小児看護の対象 ② 小児看護の目標と役割 (3) 小児医療・小児看護の変遷 (4) 小児看護における倫理		講義	専任教員 ( )		
2				講義	非常勤講師 ( )		
3	子どもの成長と発達	(1) 成長と発達の一般的原則 (2) 形態的成長 体重・身長・頭蓋・頭囲と胸囲・胸郭・脊柱 身体各部のつきあい・生歯・骨の発育		講義 GW	専任教員 ( )		
4		(3) 精神・運動機能の発達 神経系の発達・反射・運動機能・言語発達 情緒社会性の発達					
5		(4) 機能的発達 ① 循環機能 ② 呼吸機能 ③ 消化機能 ④ 腎機能と水分代謝 ⑤ 体温 ⑥ 免疫 (5) 発達の評価					
6	子どもの日常生活と養護	(1) 子どもの栄養 ① 子どもの栄養と食生活の特徴 ② 乳幼児の栄養 ③ 学童・思春期の栄養		講義 GW	専任教員 ( )		
7		(2) 基本的生活習慣と養護 ① 乳幼児期の基本的生活習慣の獲得 ② 乳幼児期の養護および看護					
8		(3) 子どもの遊び ① 子どもの遊びとは ② 子どもの遊びの発達 ③ 遊びに関わる大人の役割					
9		(4) 事故防止と安全教育					

回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員
10 11  12  13  14 15	子どもと家族を取り巻く 社会 (3時間)          試験 (1時間)	(1) 家族の特徴 (1時間) (2) 子どもをめぐる法律と政策 (3) 子どもと家族の諸統計  (4) 乳幼児期の保健 (5) 予防接種  (6) 学童・思春期の生活と保健 (7) 学校保健 (スクールカウンセリング)  (8) 子どもの虐待 ① 虐待とは ② 虐待の現状 ③ 虐待の問題点とその背景 ④ 子どもの虐待と法律 ⑤ 虐待を発見した場合の対応および援助 の実際	講義	専任教員 ( )    非常勤講師 (入野奈穂)   非常勤講師 (安藤宜幸)
評価方法	筆記試験 100点			
教科書 参考文献	系看小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院)			
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。			
☆担当教員 の実務経験	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③臨床心理士として医療機関・教育機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③ 臨床心理士・社会福祉士として行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	小児発達援助方法 I	担当教員	専任教員☆ ①	単位数	1	時期	1年次 9月～10月			
			非常勤講師☆ ②③④小児科医師	時間数	30					
目的と目標	<p>健康障害が子どもと家族に与える影響を理解し、そのために必要な援助技術が理解できる。</p> <p>1 病気や入院が子どもと家族に与える影響について理解できる。</p> <p>2 子どもの健康障害及び発達段階に応じた必要な援助について理解できる。</p> <p>3 病気や入院が子どもや家族に与える影響を理解し、苦痛への緩和、成長発達を促す援助について理解できる。</p> <p>4 子どもに特有な疾患について理解できる。</p>									
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員				
1	病気や入院が子どもと家族に与える影響とストレス	(1) 子どもへの影響と反応 ① 病気に対する子どもの反応 ② 病気の影響とストレス因子 ③ ストレスに影響を与える要因 (2) 子どもの健康障害と家族 ① 子どもの病気が家族に及ぼす影響			講義	専任教員				
2	さまざまな状況にある子どもと家族への看護 (15時間)	(1) 外来における子どもと家族の看護 ① 外来看護の特徴 ② 外来の機能と求められる看護 ③ 在宅療養が必要な子どもと家族の支援 (2) 入院生活への適応を助ける看護 ① 入院時の看護 ② 子どもの入院環境と安全管理 ③ 入院中の子どもと家族への援助 ④ 体温・呼吸・脈拍・血圧の測定			講義 V T R	専任教員				
3								講義		
4										
5		(3) 活動制限が必要な子どもと家族への看護 ① 活動制限が必要な子どもと家族への看護 ② 点滴留置時の固定法			演習					
6										
7		(4) 災害時における子どもと家族への看護 (5) 検査や処置を受ける子どもと家族への看護 ① 身体計測 ② 採尿			演習					
8										
9		(1) 出生前の疾患 (染色体異常、先天性代謝異常症) (2) 消化器疾患 (ヒルシュブルグ病、腸重積、先天性胆道閉鎖症) (3) 呼吸器疾患 (気管支炎、肺炎) (4) 循環器疾患 (ファロー四徴症、心室(房)中隔欠損症、川崎病) (5) 血液疾患 (白血病、紫斑病) (6) 腎・泌尿器疾患 (急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群) (7) 脳神経・筋疾患 (点頭てんかん、脳性麻痺) (8) 免疫・アレルギー性疾患 (免疫不全症候群、気管支喘息) (9) 感染症 (麻疹、乳児下痢症、髄膜炎など)			講義 演習 講義	非常勤講師 ( ) ( ) ( )				
10										
11					講義					
12										
13					演習					
14										
15					講義					
試験 (1時間)										
評価方法	筆記試験 100点 (専任教員40点、非常勤講師3名 各20点)									
教科書 参考文献	系看小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系看小児看護学2 小児臨床看護各論 (医学書院) 根拠と事故防止からみた小児看護技術 (医学書院)									
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。									
☆担当教員 の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②③④医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。									

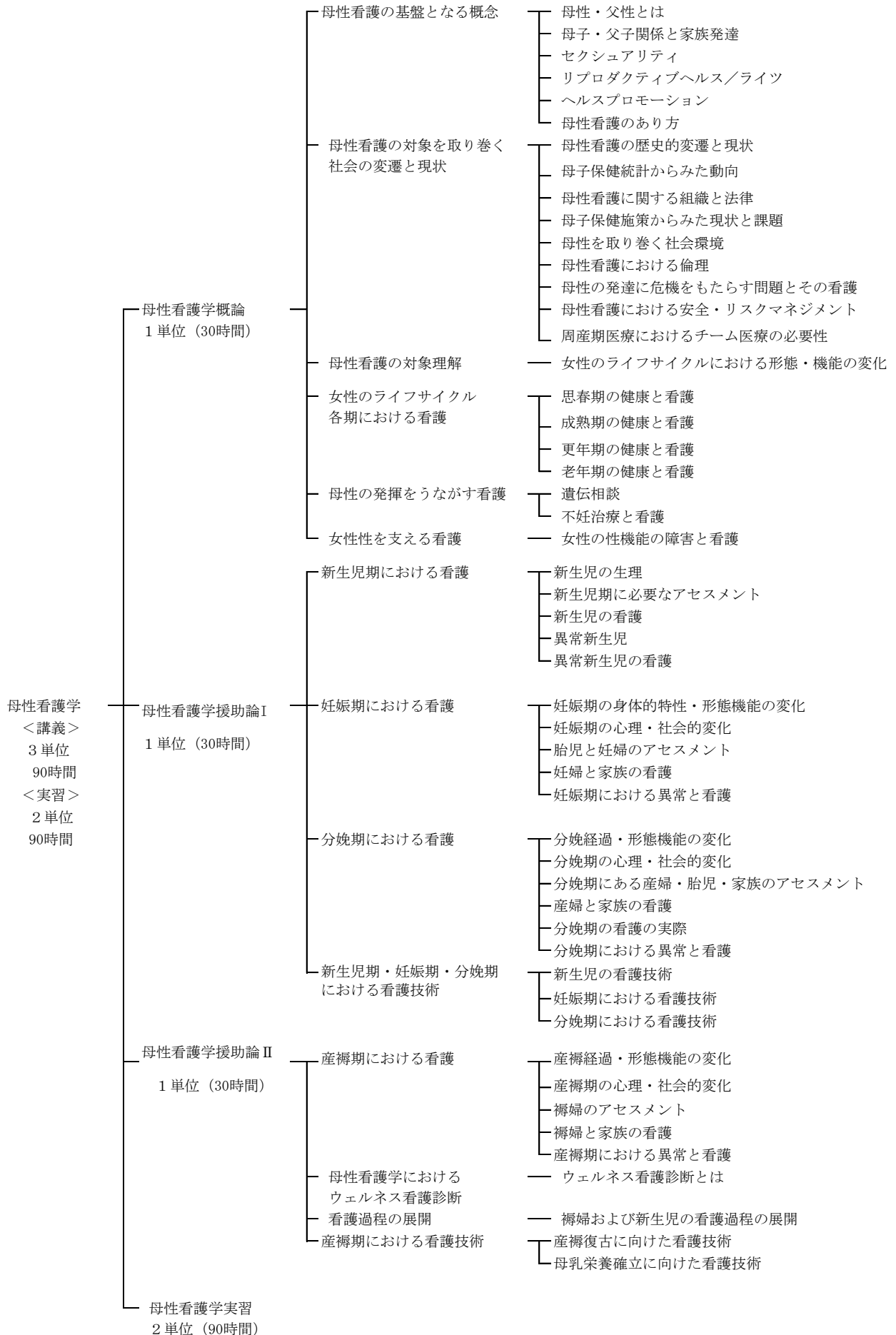
授業科目	小児発達援助方法Ⅱ	担当教員	専任教員☆ ① 非常勤講師☆ ②医療機関看護師 ③遠渡 絹代	単位数	1	時期	2年次 4月～7月
				時間数	30		
目的と目標	子どもの健康レベルに応じた看護の方法が理解できる。 1 子ども及び家族に対する疾病の回復、健康の保持増進、成長・発達を促す援助の必要性について理解できる。 2 各健康レベルにある子ども及び家族の状態をアセスメントし、必要な援助を明確にする過程が理解できる。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2	急性期にある子どもと家族の看護	(1) 急性期の特徴 (2) 主な症状と看護 ① 脱水時のアセスメントと看護 ② 呼吸困難時のアセスメントと看護 ③ けいれん時のアセスメントと看護			講義 演習	専任教員	
3 4	慢性期にある子どもと家族の看護	(1) 慢性期の特徴 (2) 長期入院が子ども・家族に与える影響 (3) 長期入院・療養が必要な子どもと家族の看護			講義 演習	専任教員	
5	手術を受ける子どもと家族の看護	(1) 子どもの手術の特徴 (2) 術前の心理的準備と身体的準備 (3) 周手術期の子どもの安全・安楽への援助と家族への援助			講義		
6 7	救急処置が必要な子どもと家族の看護 (3時間)	(1) 誤飲物質と処置 (2) 溺水 (3) 熱傷 (4) 心肺蘇生法			講義	非常勤講師 ( )	
8	終末期にある子どもと家族の看護	(1) 子どもの死の概念 (2) 終末期にある子どもの心身の状態と緩和ケア (3) 子どもの死を見取る家族への看護			講義	専任教員	
9 10	障がいのある子どもと家族の看護	(1) 障がい児と看護 ① 肢体不自由児 ② 精神遅滞児 ③ 重症心身障がい児			講義	非常勤講師 (遠渡絹代)	
11 12 13 14 15	健康障害をもつ子どもの看護過程の展開  試験 (1時間)	(1) 事例に応じた児と家族への看護 ① 疾患の理解 ② 対象の理解 ③ 問題の明確化 ④ 計画立案			演習 GW 個人ワーク	専任教員	
評価方法	筆記試験 100点						
教科書 参考文献	系看小児看護学1 小児看護学概論小児臨床看護総論 (医学書院) 系看小児看護学2 小児臨床看護各論 (医学書院)						
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。						
☆担当教員の 実務経験	① ②③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

## 母性看護学

目的 母性看護の対象を理解し、健全なライフサイクルを送るための看護を学び、対象のニーズに応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。

- 目標
- 1 社会の変化に伴う母性看護の変遷と役割が理解できる。
  - 2 母性と父性の役割・機能および特徴が理解できる。
  - 3 母性のライフサイクル各期の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。
  - 4 母性のライフサイクル各期におこりやすい健康障害とその看護が理解できる。
  - 5 妊娠・分娩・産褥期および新生児期の経過とその看護が理解できる。
  - 6 妊娠・分娩・産褥期および新生児期における生理的变化を促進するために必要なアセスメント能力を養う。
  - 7 自己の母性観・父性観について考えを深める。

母性看護学構成図



授業科目	母性看護学概論	担当教員	専任教員☆ ① 非常勤講師☆ ②堀部 雅子 ③前田 キヤ子	単位数	1	時期	1年次 4月～10月
			時間数	30			
目的と目標	母性看護の対象を理解し、健全なライフサイクルを送るための看護を学ぶ。 1 母性・父性の特性を理解する。 2 母性看護における倫理・人権擁護を理解する。 3 母性看護の意義と役割を理解する。 4 母子とその家族を取り巻く地域社会における母子保健・看護活動を理解する。 5 母性看護の対象を理解する。 6 母性のライフサイクル各期の特徴を理解する。 7 健全な母性の発達に必要な援助を理解する。						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1 2 3	母性看護の基盤となる概念	(1) 母性・父性とは ①母性の発達・成熟・継承 ②母性の身体・心理・社会的特性 ③母性看護における母性・父性 (2) 母子・父子関係と家族発達 ①愛着・母子相互作用と母子関係形成 ②女性・家族のライフサイクル (3) セクシュアリティ ①セクシュアリティ (人間の性) ②セクシュアリティの発達と課題 (4) リプロダクティブヘルス/ライツ ①リプロダクティブヘルス/ライツとは ②女性とリプロダクティブヘルス/ライツの課題 (5) ヘルスプロモーション ①ヘルスプロモーションとは ②女性の生涯にわたる健康教育 (6) 母性看護のあり方 ①母性看護の理念 ②母性看護の課題と展望		講 義	専任教員 ( )		
4	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	(1) 母性看護の歴史的変遷と現状 (2) 母子保健統計からみた動向 (3) 母性看護に関する組織と法律		講 義	専任教員 ( )		
5		(4) 母子保健施策からみた現状と課題		講 義	非常勤講師 (堀部雅子)		
6 7		(5) 母性を取り巻く社会環境 (6) 母性看護における倫理 (7) 母性の発達に危機をもたらす問題とその看護 (8) 母性看護における安全・リスクマネジメント (9) 周産期医療におけるチーム医療の必要性		講 義	専任教員 ( )		
8 9	母性看護の対象理解	(1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 ①性の分化と胎児期における生殖器の発育 ②生殖器の形態・機能		講 義	非常勤講師 (前田キヤ子)		



授業科目	母性看護学援助論 I	担当教員	専任教員☆ ① 非常勤講師☆ ②新生児内科医師 ③医療機関助産師 ④医療機関助産師	単位数	1	時期	1年次 10月～2月				
			時間数	30							
目的と目標	<p>新生児期・妊娠期・分娩期における母児の生理的変化と母児関係を理解し、対象およびその家族に対して適切な看護ができる基礎的知識を学ぶ。</p> <p>1 新生児期・妊娠期・分娩期の生理的変化と経過がわかる。 2 新生児期・妊娠期・分娩期にある対象の看護がわかる。 3 新生児期・妊娠期・分娩期における基本的援助技術を習得できる。</p>										
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員					
1 2 3 4	新生児期における看護 (11時間)	(1) 新生児の生理 (2) 新生児期に必要なアセスメント (3) 新生児の看護 ①出生直後の看護 ②出生後から退院時までの看護 ③新生児の観察			講 義	専任教員 ( )					
5		(4) 異常新生児 ①新生児仮死 ②分娩外傷 ③低出生体重児 ④高ビリルビン血症						講 義	非常勤講師 ( )		
6		(5) 異常新生児の看護 ①低出生体重児の看護 ②健康障害を持つ新生児の看護 ③母児分離時の看護			講 義	非常勤講師 ( )					
7 8 9 10		妊娠期における看護	(1) 妊娠期の身体的特性・形態機能の変化 ①妊娠の生理 ②胎児の発育とその生理 ③母体の生理的変化 (2) 妊娠期の心理・社会的変化 (3) 胎児と妊婦のアセスメント (4) 妊婦と家族の看護 ①妊婦の保健指導 ②妊婦の保健指導の実際 (集団・個別指導) ③親になるための教育 (5) 妊娠期における異常と看護 ①ハイリスク妊娠 ②妊娠期の感染症 ③妊娠疾患 ④妊娠持続期間の異常 ⑤子宮外妊娠 ⑥ハイリスク妊婦の看護								講 義

回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員
11 12 13	分娩期における看護	(1) 分娩経過・形態機能の変化 ①分娩とは ②分娩の三要素 ③胎児と子宮および骨盤との関係 ④正常分娩の機序 (2) 分娩期の心理・社会的変化 (3) 分娩期にある産婦・胎児・家族のアセスメント (4) 産婦と家族の看護 ①看護目標と産婦のニード ②安全・安楽な分娩への看護 ③出産体験が肯定的になるための看護 (5) 分娩期の看護の実際 (6) 分娩期における異常と看護 ①産道の異常 ②娩出力の異常 ③胎児の異常による分娩障害 ④胎児の付属物の異常 ⑤分娩時の損傷 ⑥分娩第3期および分娩直後の異常 ⑦分娩時異常出血 ⑧異常のある産婦への看護	講 義	非常勤講師 ( )
14 15	新生児期・妊娠期・分娩期における看護技術	(1) 新生児の看護技術 ①検温（視診・触診・聴診）の方法 ②清潔の援助方法（沐浴・ドライテクニック） ③抱き方・更衣・おむつ交換の方法 (2) 妊娠期における看護技術 ①レオポルド触診法 ②子宮底長、腹囲の測定法 ③胎児心音聴取法 (3) 分娩期における看護技術 ①陣痛の測定法	講 義 演 習	専任教員 ( )
	試験（1時間）			
評価方法	筆記試験 配点 100点（1～6回、14、15回 35点、7～10回 35点、11～13回 30点）			
教科書 参考文献	系看 専門Ⅱ 母性看護学〔2〕 母性看護学各論（医学書院） 根拠と事故防止からみた母性看護技術（医学書院）			
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。 適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。			
☆担当教員 の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②医師として行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③④助産師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。			

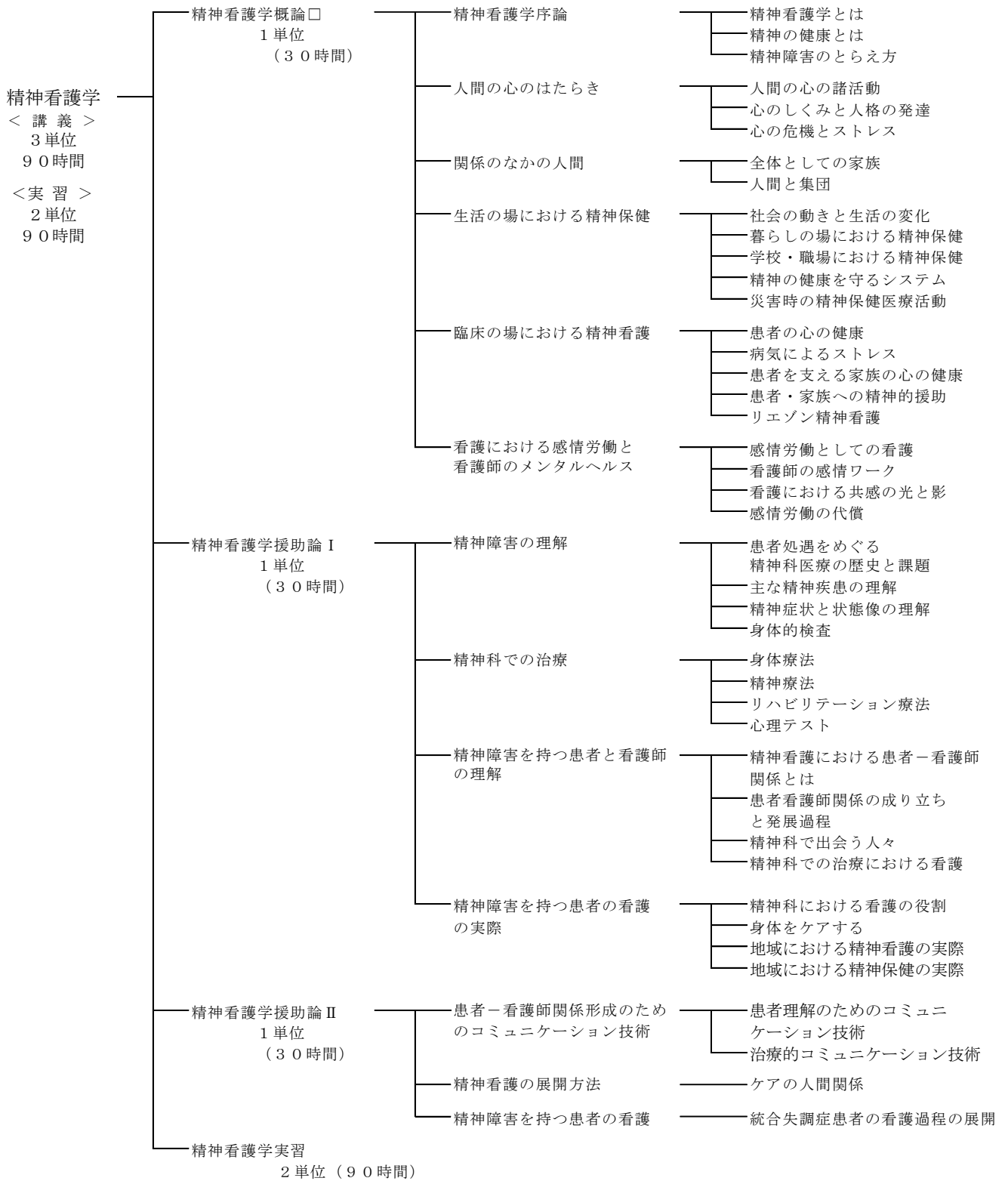
授業科目	母性看護学援助論Ⅱ	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	2年次 4月～7月
				時間数	30		
目的と目標	周産期の対象の生理的変化と状態に応じた看護過程の展開および看護援助を理解する。 1 周産期におけるアセスメントの視点がわかり、対象が理解できる。 2 褥婦および新生児の生理的変化をふまえ、経過に応じた援助の必要性および援助方法が理解できる。 3 産褥期における基本的援助技術が習得できる。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2 3 4 5	産褥期における看護	(1) 産褥経過・形態機能の変化 (2) 産褥期の心理・社会的変化 (3) 褥婦のアセスメント (4) 褥婦と家族の看護 ①身体機能回復および進行性変化への看護 ②児との関係確立への看護 ③安全に基づいた育児技術の援助 ④家族関係再構築への看護（家族計画） (5) 産褥期における異常と看護 ①子宮復古不全 ②産褥期の発熱 ③異常のある褥婦への看護			講 義	専任教員 ( )	
6 7	母性看護学における ウェルネス看護診断	(1) ウェルネス看護診断とは			講 義	専任教員 ( )	
8 9 10 11 12 13	看護過程の展開 (11時間)	(1) 褥婦および新生児の看護過程の展開			講 義 演 習	専任教員 ( )	
14 15	産褥期における看護技術	(1) 産褥復古に向けた看護技術 ①褥婦の観察 (2) 母乳栄養確立に向けた看護技術 ①乳房の手当 ②授乳の援助			講 義 演 習	専任教員 ( )	
	試験 (1時間)						
評価方法	看護過程の展開 35点 + 筆記試験 65点 合計 100点						
教科書 参考文献	系看 専門Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 (医学書院) ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 (医歯薬出版株式会社) 根拠と事故防止からみた母性看護技術 (医学書院)						
事前準備や 受講条件等	教科書を読んで講義に臨むこと。 適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。						
☆担当教員 の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

## 精神看護学

目 的 人間の心の発達および人間のライフサイクルにおける心の健康を脅かす要因を理解し、社会生活を営むための心の健康の維持増進をはかる方法を学ぶ。また、精神に障害を持つ対象およびその家族への援助に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。

- 目 標
- 1 人間の心の発達および心の健康について理解できる。
  - 2 心の健康を脅かす要因を理解し、社会生活を営む対象の心の健康問題について理解できる。
  - 3 精神に障害を持つ対象の置かれてきた歴史的変遷、社会的背景が理解できる。
  - 4 精神に障害を持つ対象を取り巻く保健・医療・福祉を統合的に理解し看護の責任と役割がわかる。
  - 5 精神に障害を持つ対象との関わりを通して自己を洞察し、精神看護における患者-看護師関係が理解できる。
  - 6 精神に障害を持つ対象および家族への援助に必要な基礎的知識、技術が習得できる。
  - 7 社会環境と個人の精神活動の関係を学び、「こころの病」回復・社会復帰のために、ノーマライゼーション社会への課題を考えることができる。

精神看護学構成図



授業科目	精神看護学概論	担当教員	専任教員☆ ① 非常勤講師☆ ②橋本 哲也	単位数	1	時 期	1年次 7月～11月
				時間数	30		
目的と目標	<p>人間のライフサイクルにおける心の健康の特徴を学び、心の健康問題の発生プロセスと健康保持・増進回復のための看護の役割について考える。</p> <p>1 ライフサイクルにおける心の発達と健康が理解できる。  2 人間の心と行動の関係、ストレス、適応、危機の考え方が理解できる。  3 様々な生活の場における心の健康問題およびその発生要因が理解できる。  4 地域生活を営む対象を支える制度システムが理解できる。  5 家庭・地域・学校・職場における心の健康問題について理解できる。  6 精神保健福祉の現状と、社会資源が理解できる。</p>						
回数	学習課題	内 容		方法	担当教員		
1 2	精神看護学序論	(1) 精神看護学とは (2) 精神の健康とは (3) 精神障害のとらえ方 ①疾患モデルと障害モデル		講義	専任教員 ( )		
3	人間の心のはたらき	(1) 人間の心の諸活動 ①人格と気質 ②知能 ③意識と認知機能 ④感情 (2) 心のしくみと人格の発達 ①精神分析と精神力動理論 ア 自我の構造 イ 不安と防衛 ウ 自我の発達段階 ②エリクソンの漸成的発達理論 ③対象関係論 ④ボウルビーの愛着理論 ⑤コフートの自己心理学		講義	非常勤講師 (橋本哲也)		
4 5		(3) 心の危機とストレス ①危機理論とストレス理論 ②ストレスへの対処 ③ストレスとしての心的外傷(トラウマ) ④危機を乗り越え、成長していくための支援と力		講義	専任教員 ( )		
6 7	関係のなかの人間	(1) 全体としての家族 (2) 人間と集団		講義	同上		
8 9 10	生活の場における精神保健	(1) 社会の動きと生活の変化 (2) 暮らしの場における精神保健 (3) 学校・職場における精神保健 (4) 精神の健康を守るシステム (5) 災害時の精神保健医療活動		講義 GW	同上		
11 12 13	臨床の場における精神看護	(1) 患者の心の健康 (2) 病気によるストレス (3) 患者を支える家族の心の健康 (4) 患者・家族への精神的援助 (5) リエゾン精神看護		講義	同上		

回数	学習課題	内 容	方法	担当教員
14 15	看護における感情労働と 看護師のメンタルヘルス (3時間)  試験(1時間)	(1)感情労働としての看護 (2)看護師の感情ワーク (3)看護における共感の光と影 (4)感情労働の代償	講義 GW	専任教員 ( )
評価方法	筆記試験			
教科書 参考文献	系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生統計協会)			
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。			
☆担当教員 の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②臨床心理士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	精神看護学援助論 I	担当教員	専任教員☆ ① 非常勤講師☆ ②安楽 一隆 ③橋本 哲也 ④医療機関看護師 ⑤医療機関看護師 ⑥保健師	単位数	1	時期	1年次 11月～2月
			時間数	30			
目的と目標	<p>主要な精神疾患の症状・経過・治療について学び、精神障害をもつ対象及びその家族への援助に必要な知識・技術を習得する。</p> <p>1 主な精神疾患の特徴と治療および看護援助について理解できる。 2 主要な精神疾患の症状・経過・治療が理解できる。 3 精神疾患患者におこりやすい生活障害および看護の基礎となる考え方が理解できる。 4 地域生活を営む対象を支える支援の実践が理解できる。</p>						
回数	学習課題	内 容		方法	担当教員		
1 2 3 4	精神障害の理解	<p>(1) 患者処遇をめぐる精神科医療の歴史と課題</p> <p>①精神科医療の変遷と患者処遇 ②精神障害の医学モデル ③精神障害と法制度</p> <p>(2) 主な精神疾患の理解</p> <p>①疾病の分類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・器質性精神病</li> <li>・精神作用物質による精神、行動の異常</li> <li>・てんかん           ・統合失調症</li> <li>・気分[感情]障害</li> <li>・神経症、ストレス関連障害および身体表現性障害</li> <li>・生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群</li> <li>・精神発達障害</li> <li>・小児期、青年期に発症する行動および情緒障害</li> <li>・心身症           ・パーソナリティ障害</li> <li>・器質性精神障害</li> </ul> <p>(3) 精神症状と状態像の理解</p> <p>①精神症状と状態像のとらえ方 ②感情の異常 ③幻覚妄想状態 ④意欲障害が関係する行動症候群 ⑤器質性精神症候群</p> <p>(4) 身体的検査</p>		講義	非常勤講師 (安楽一隆)		
5 6	精神科での治療	<p>(1) 身体療法</p> <p>①薬物療法 ②電気けいれん療法</p> <p>(2) 精神療法</p> <p>①個人療法 ②集団精神療法 ③その他の精神療法     作業療法・芸術療法・SST</p> <p>(3) リハビリテーション療法 (4) 心理テスト</p>		講義	同上		
7				講義	非常勤講師 (橋本哲也)		

回数	学習課題	内 容	方法	担当教員
8 9 10 11 12	精神障害を持つ患者と看護の理解（9時間）	(1) 精神看護における患者－看護師関係とは (2) 患者－看護師関係の成り立ちと発展過程 (3) 精神科で出会う人々 ①精神を病むことと生きること ②精神症状論と状態像 ・統合失調症の看護 ・気分[感情]障害の看護 ・アルコール依存症の看護 ・人格障害の看護 ・てんかんの看護 (4) 精神科での治療における看護 ①精神科における治療 ②薬物療法・電気けいれん療法 ③精神療法 ④環境療法・社会療法	講義	専任教員 ( )
13	精神障害を持つ患者の看護の実際（6時間）	(1) 病院における看護の実際 ①入院治療の目的と意味 ②治療環境をつくる ③安全をまもる ④緊急事態の対処 ⑤回復を助ける (2) 身体をケアする ①精神科における身体ケア ②身体にあらわれる心の痛み ③精神科の治療と身体ケア ④日常から気をつけておきたい身体合併症 ⑤精神科における身体のケアの実際 (3) 地域における精神看護の実際 ①精神障害をもちながら地域で暮らす人を支える ②地域で生活するための原則 ③生活を支えるための社会資源・サービス ④地域での看護の実際 (4) 地域における精神保健の実際 ①精神障害者の地域生活支援の現状 ②精神障害者のニーズに応じた地域生活支援の展開 ③地域生活の中断を防ぐための支援の展開 ④地域における早期支援の重要性と支援	講義	非常勤講師 ( )
14				非常勤講師 ( )
15				非常勤講師 (保健師)
	試験（1時間）			
評価方法	筆記試験 配点 100点（1～6回：50点、8～12回：40点、13回：10点）			
教科書 参考文献	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉（医学書院） 系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎（医学書院） 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開（医学書院）			
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。			
☆担当教員 の業務経験	①④看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③臨床心理士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ⑤看護師として医療機関・訪問看護ステーションに勤務した経験を活かした授業展開をする。 ⑥保健師として行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	精神看護学援助論Ⅱ	担当教員	専任教員☆ ①	単位数	1	時期	2年次 4月～6月
			非常勤講師☆ ②吉村 讓	時間数	30		
目的と目標	精神障害をもつ対象及びその家族への看護実践に必要な科学的思考プロセスを学習する。 1 患者－看護師関係の意義と成立・発展過程およびその方法が理解できる。 2 精神障害を持つ対象に対する看護の展開方法が理解できる。						
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1	患者－看護師関係形成のためのコミュニケーション技術	(1) 患者理解のためのコミュニケーションの技術 (2) 治療的コミュニケーション技術			講義 (一部GWを取り入れる)	非常勤講師 (吉村讓)	
2	精神看護の展開方法	(1) ケアの人間関係			講義 GW	専任教員 ( )	
3		①関係をアセスメントする					
4		②患者－看護師関係における感情体験					
5		③チームのダイナミクス					
6							
7							
8		精神障害を持つ患者への看護 (15時間)	(1) 統合失調症患者の看護過程の展開				
9	①事例のアセスメント						
10	②看護計画立案						
11							
12							
13							
14							
15							
	試験 (1時間)						
評価方法	レポート (事例展開) 20点, 筆記試験 80点 (2~7回 40点・8~15回 40点)						
教科書	系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎 (医学書院)						
参考文献	系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 (医学書院)						
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。						
☆担当教員 の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②臨床心理士として教育機関・行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						